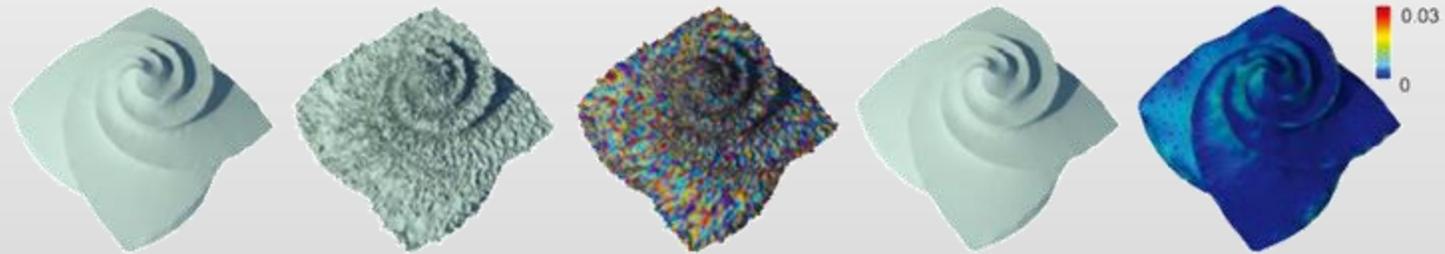


-形状分析-

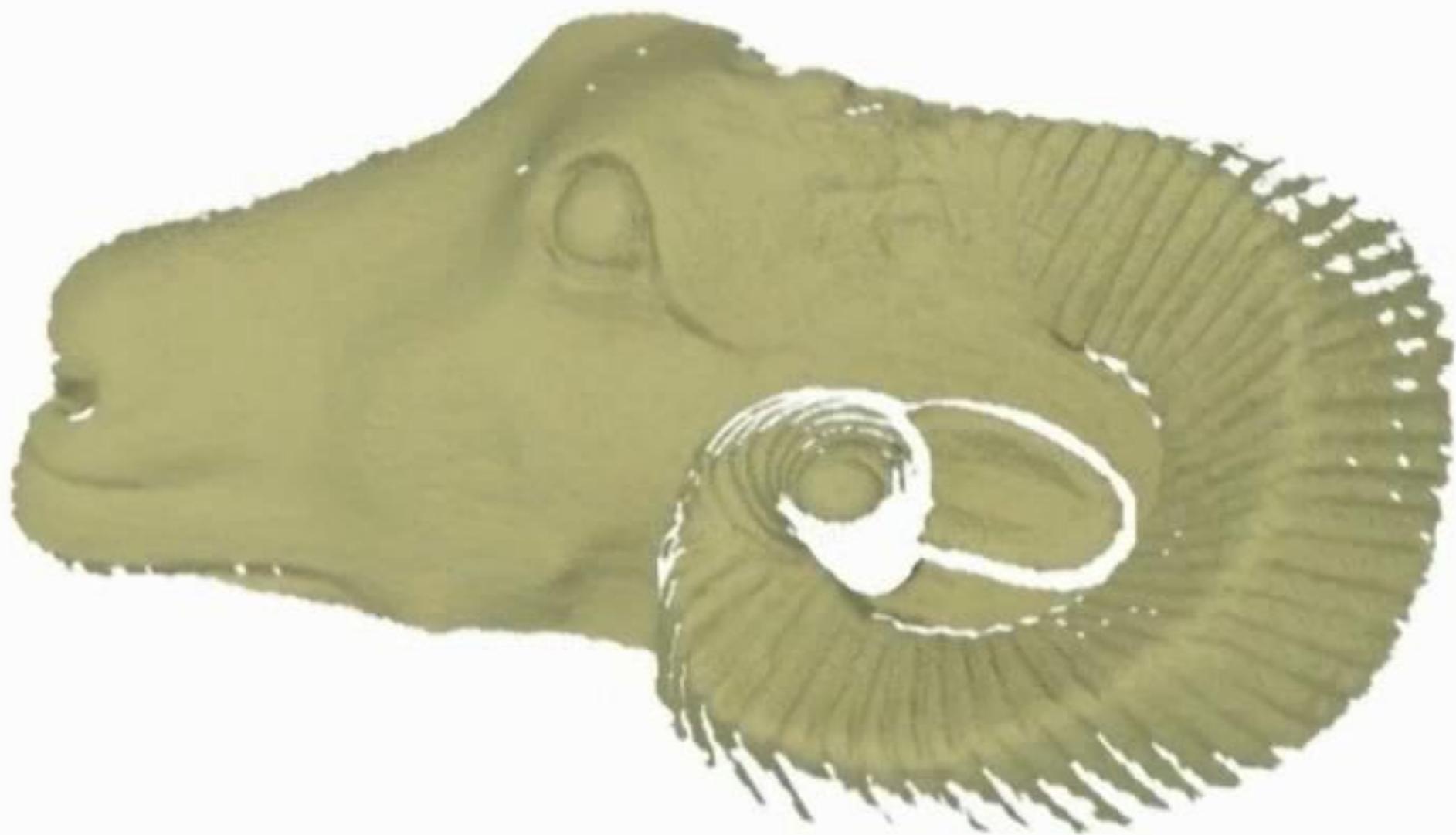
Decoupling Noise and Features via Weighted l_1 -Analysis Compressed Sensing

Ruimin Wang, Zhouwang Yang, Ligang Liu, Jiansong Deng, Falai Chen
(University of Science and Technology of China)



藤堂英樹

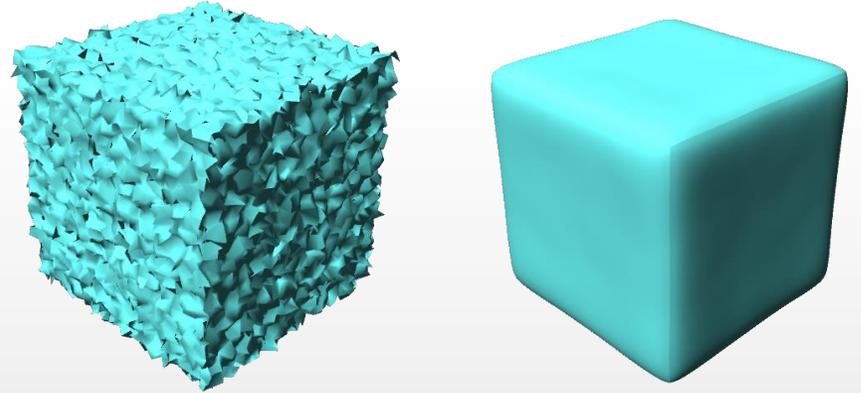
東京大学 / JST CREST



Scanning data

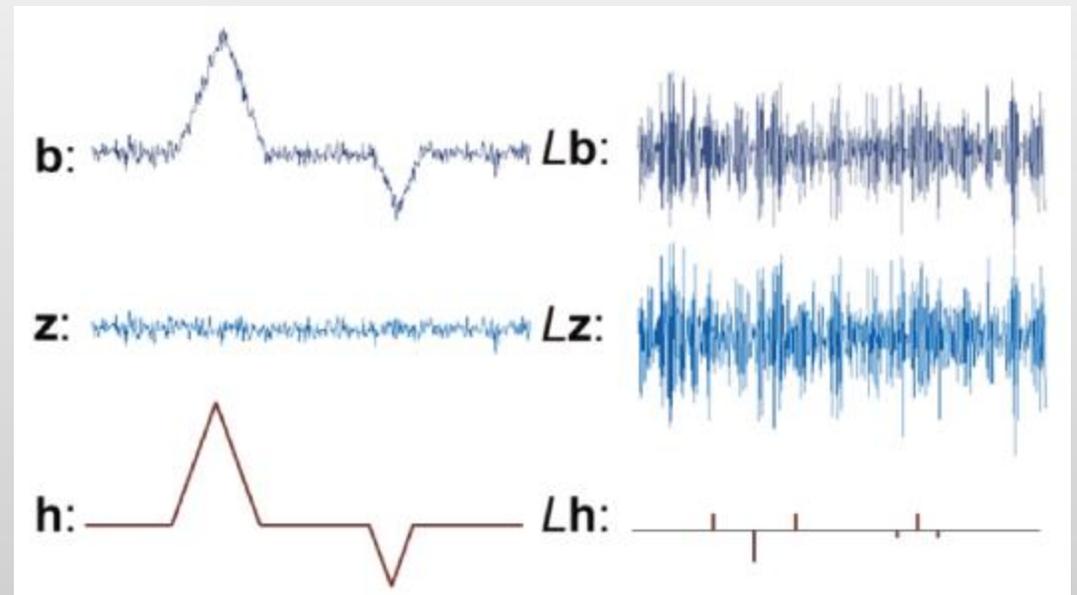
モチベーション

- ▶ 特徴とノイズを分けるのは難しい
 - ▶ 特徴はノイズがあると見つけにくい
 - ▶ ノイズを除去するとシャープな特徴がぼける



- ▶ 基本アイデア

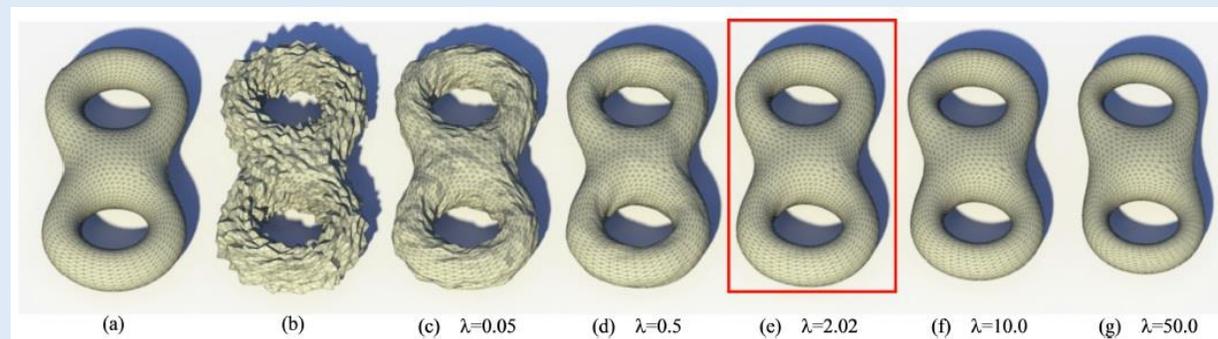
- ▶ シャープな特徴は疎
- ▶ L1解析で疎な特徴を抽出できる



提案手法の概要

Phase I: 平滑化メッシュと残差の分離(ノイズ除去)

離散Laplacian平滑化モデル
GCVによる最適な平滑化パラメータ



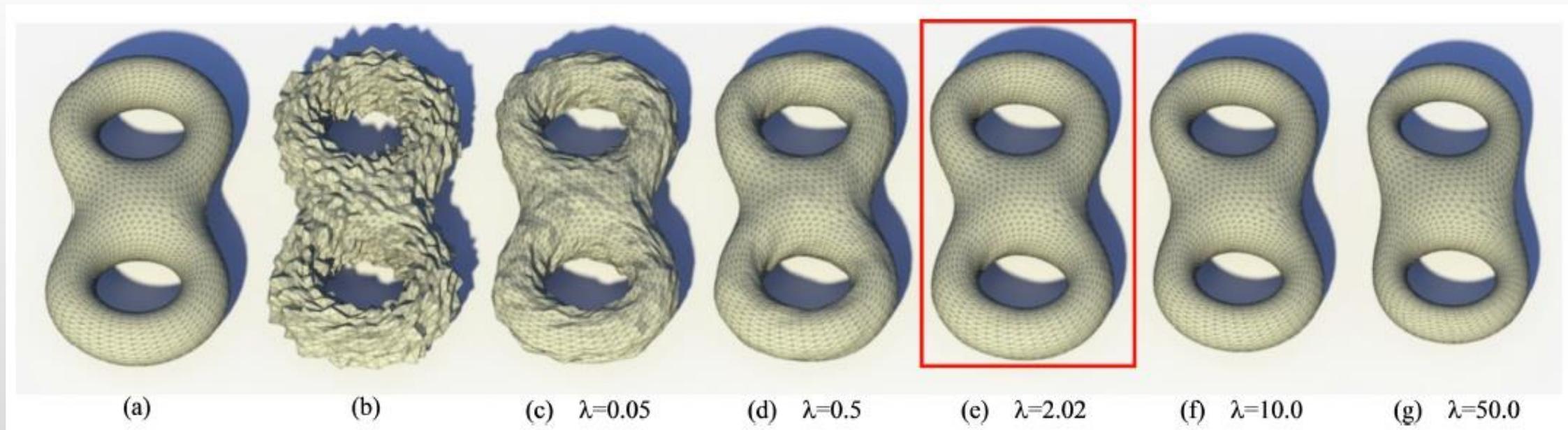
Phase II: 残差から特徴とノイズを分離

L1解析による特徴とノイズの分離
特徴を保ってメッシュを平滑化



Phase I: 平滑化メッシュと残差の分離(ノイズ除去)

- ▶ 最適な平滑化パラメータ λ を自動計算



正解メッシュ 入力メッシュ
(ノイズ)

λ を変えて平滑化した結果

離散Laplacian平滑化モデル

$$\hat{S} = \arg \min_S \sum_{i=1}^n \|\mathbf{p}_i - \mathbf{s}_i\|^2 + \lambda \sum_{i=1}^n \|L_i S\|^2$$

頂点制約

平滑化項

- ▶ 行列計算で解を求める

$$(I_n + \lambda M) \hat{S} = P, \quad M = L^T L = \sum_{i=1}^n L_i^T L_i.$$

$$\hat{S}_n(\lambda) = (I_n + \lambda M)^{-1} P$$

最適な λ は？

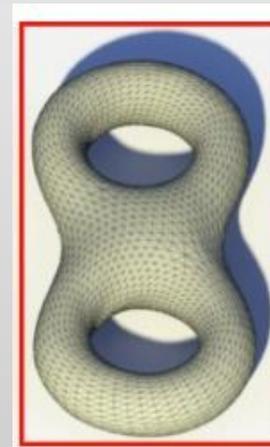
GCV (Generalized Cross-Validation)による最適なパラメータ

- ▶ スプライン曲線の平滑化で用いられる手法[Wahba 1990]

$$\text{GCV}_n(\lambda) = \frac{\frac{1}{n} \|P - \hat{S}_n(\lambda)\|_F^2}{\left(1 - \frac{1}{n} \text{tr}[A_n(\lambda)]\right)^2}, \quad A_n(\lambda) = (I_n + \lambda M)^{-1}$$

- ▶ 直線探索によって GCV_n を最小化する $\hat{\lambda}_G$ を求める
 - ▶ 高速化のため固有値での近似計算

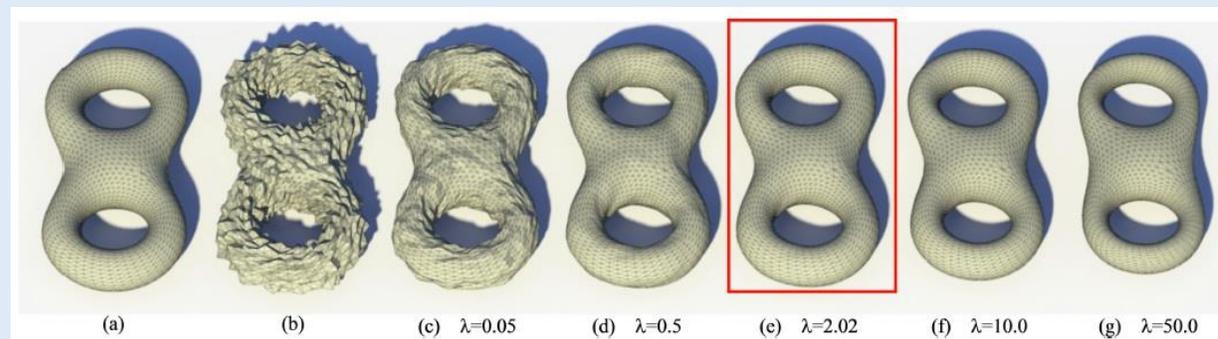
$$\text{tr}[A_n(\lambda)] = \sum_{i=1}^n \frac{1}{1 + \lambda \mu_i}.$$



提案手法の概要

Phase I: 平滑化メッシュと残差の分離(ノイズ除去)

離散Laplacian平滑化モデル
GCVによる最適な平滑化パラメータ



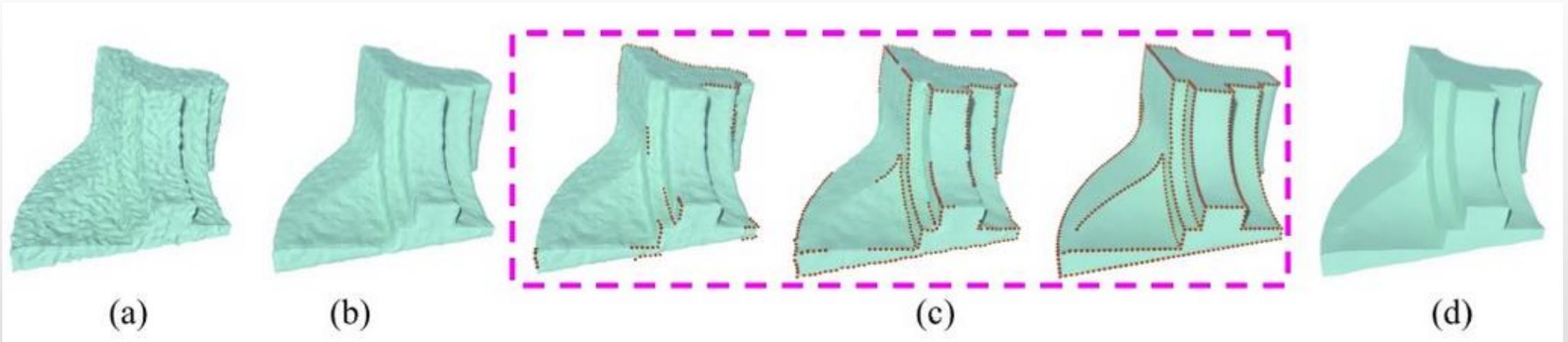
Phase II: 残差から特徴とノイズを分離

L1解析による特徴とノイズの分離
特徴を保ってメッシュを平滑化



Phase II: 残差から特徴とノイズを分離

- ▶ 圧縮センシング (L1 解析) でシャープな特徴を抽出



入力メッシュ
(ノイズ)

平滑化メッシュ

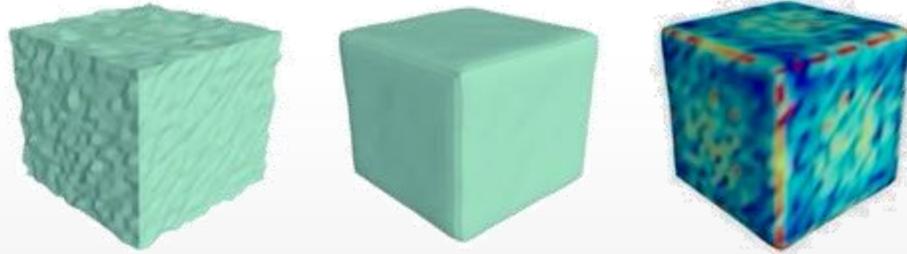
繰り返し：
シャープな特徴の抽出
特徴を保って平滑化

最終結果

L1解析によるシャープな特徴の復元

- ▶ 法線方向の残差を計算

$$b_i = (\mathbf{p}_i - \hat{\mathbf{s}}_i)^T \hat{\mathbf{n}}_i,$$

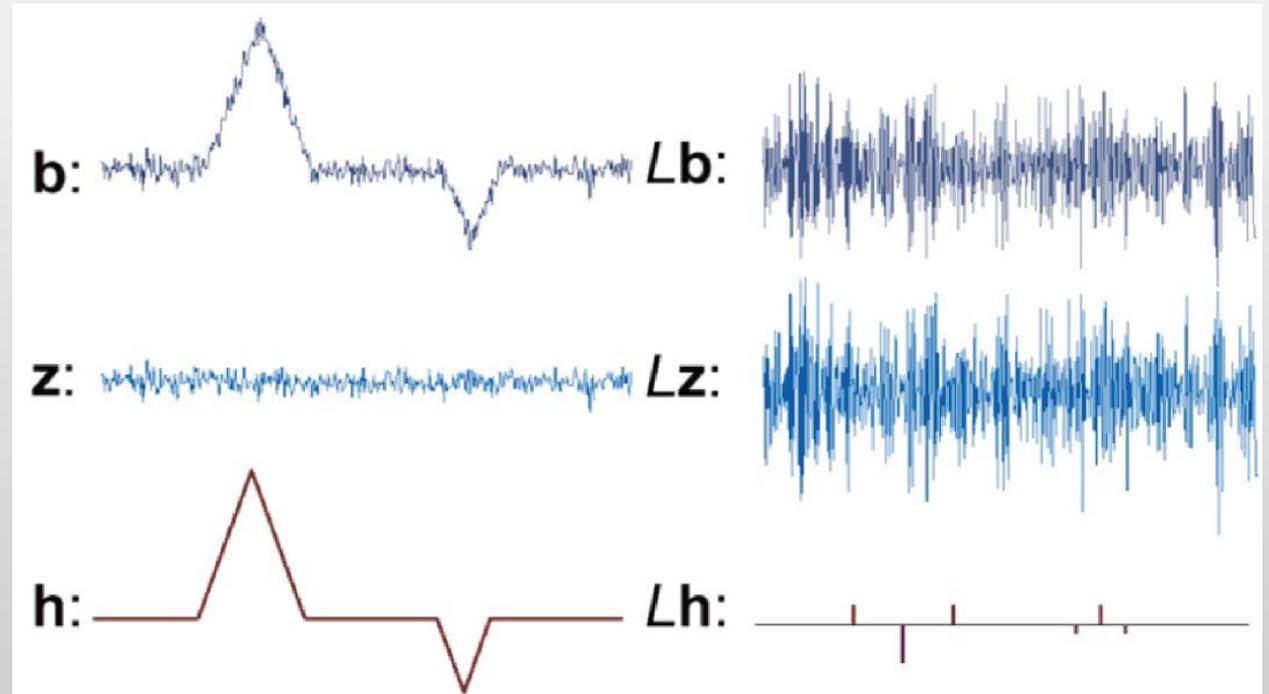


- ▶ Laplacian成分のL1解析でシャープな特徴を復元

$$\min_{\mathbf{h}} \|\mathbf{h} - \mathbf{b}\|_2^2$$

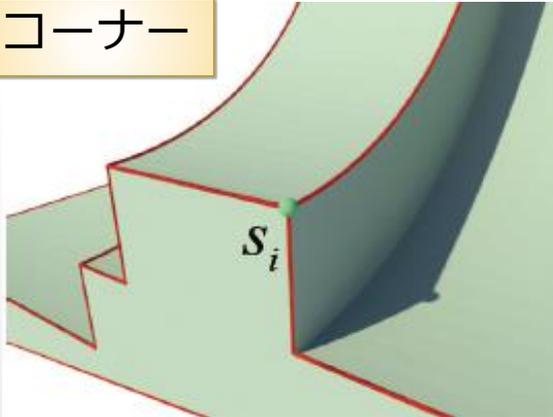
$$\text{s.t. } \|W(L\mathbf{h})\|_1 = \sum_{i=1}^n w_i |L_i \mathbf{h}| \leq \tau$$

$$w_i = \frac{1}{\rho + \|L_i \hat{S}\|}$$



特徴を保ってメッシュを平滑化

コーナー



$$\mathbf{L}(s_i) = L_i(S) = 0$$

繰り返し：

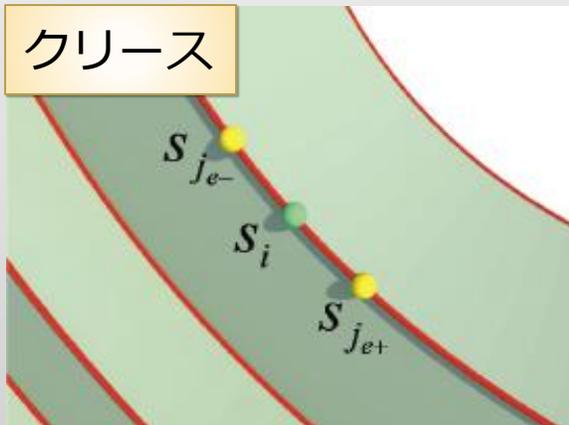
シャープな特徴の抽出

特徴を保って平滑化

Kolmogorov-Smirnovテスト

[Massey 1951]

クリース



$$\mathbf{L}(s_i) = L_i(S) = s_{je-} + s_{je+} - 2s_i$$



現状の実装状況

- ▶ 速度面を除いてPhase Iをほぼ再現



正解メッシュ



入力メッシュ
(ノイズ)



$\lambda = 0.5$



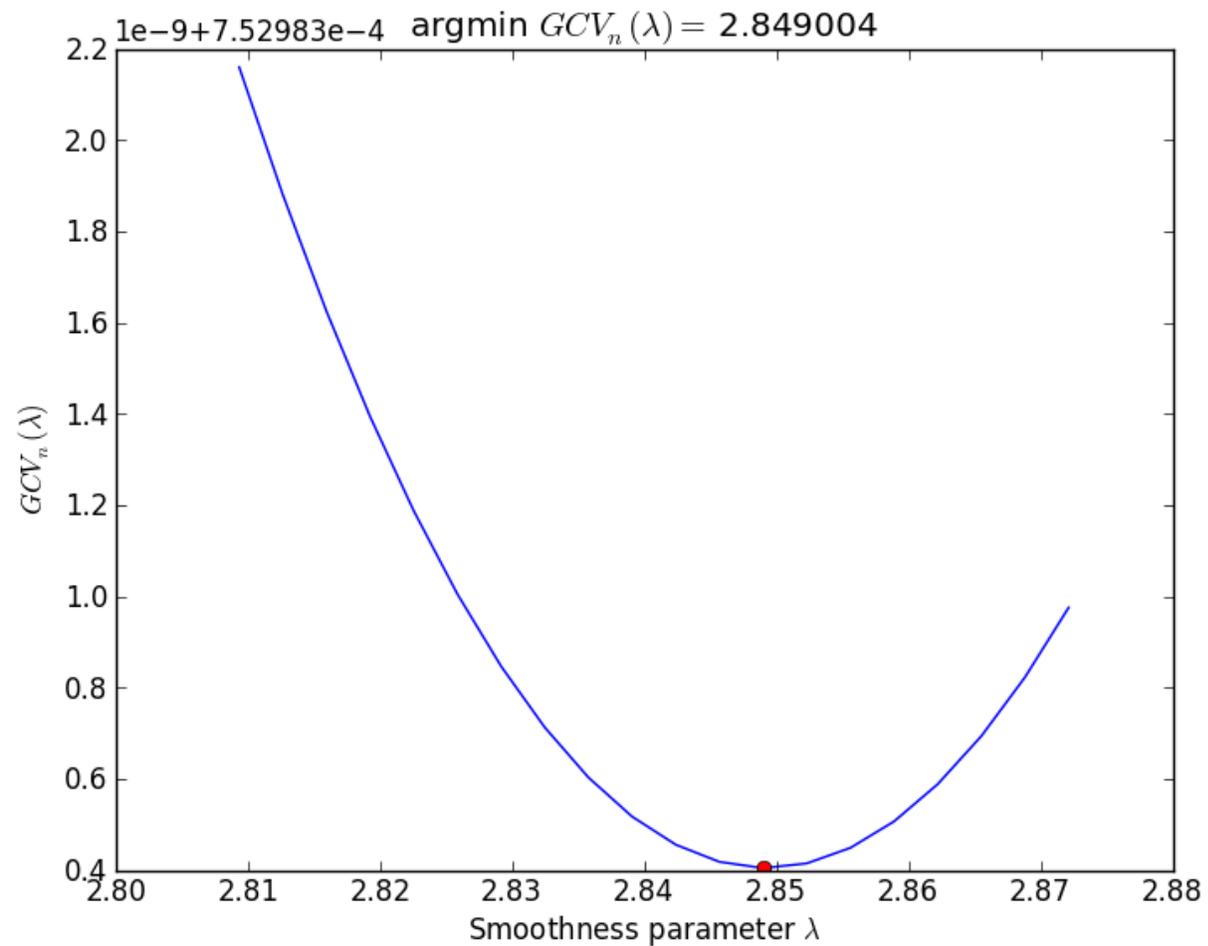
$\lambda = 2.85$



$\lambda = 50$

現状の実装状況

- ▶ 速度面を除いてPhase Iをほぼ再現



$\lambda = 2.85$

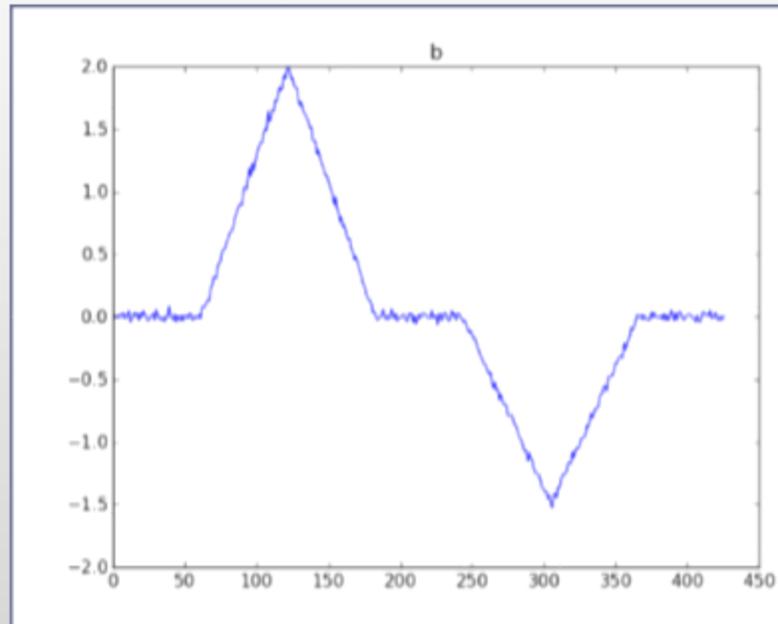


$\lambda = 50$

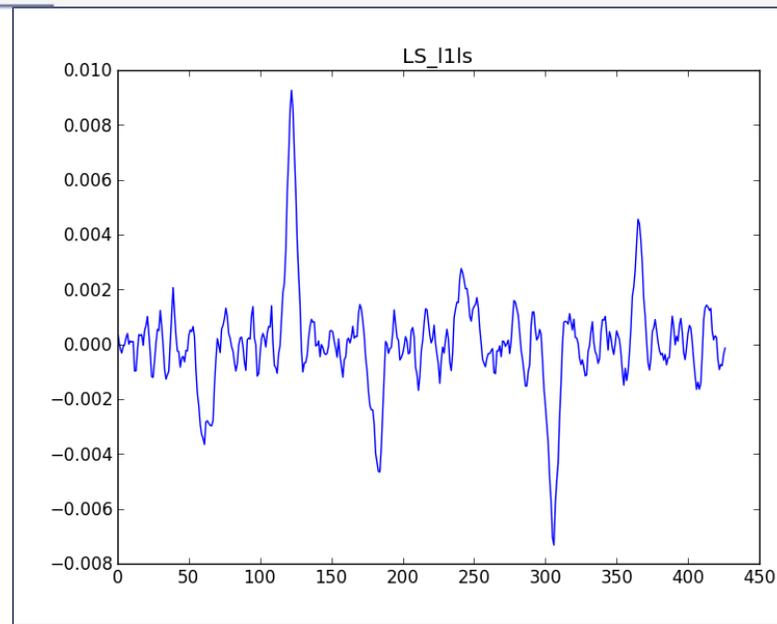
現在の実装状況

▶ L1解析: $\min_{\mathbf{h}} \|\mathbf{h} - \mathbf{b}\|^2 + \tau \|W(L\mathbf{h})\|_1$

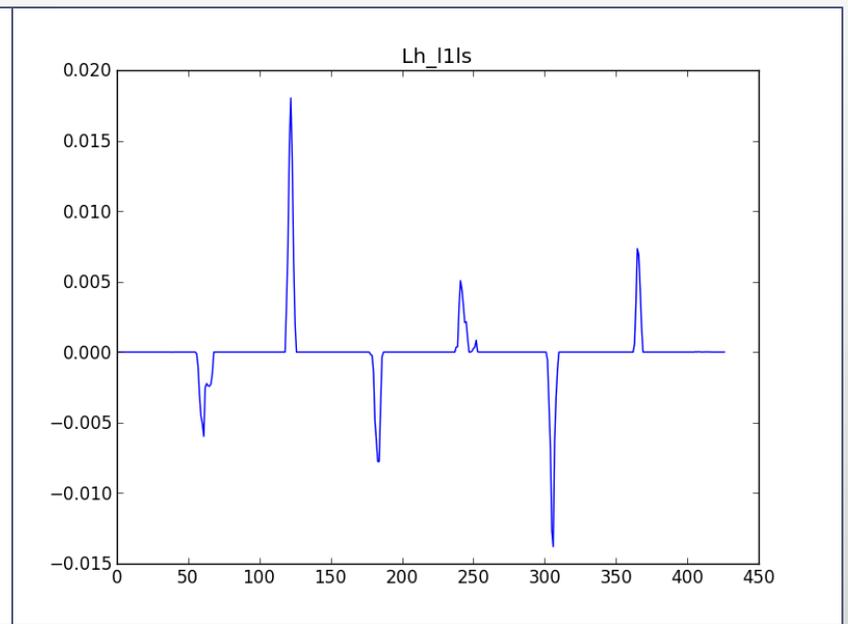
$$w_i = \frac{1}{\rho + \|L_i \hat{S}\|}$$



残差 \mathbf{b}



平滑化データのLaplacian LS



復元された特徴 $L\mathbf{h}$

実装面での課題

▶ GCVの計算速度

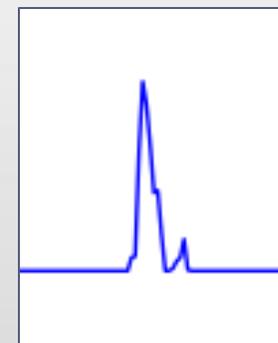
- ▶ 固有ベクトルの計算に時間がかかる
- ▶ 固有ベクトルを高速に計算する方法はあるか？
- ▶ 固有値のみで近似する方法はあるか？

$$\text{GCV}_n(\lambda) = \frac{\frac{1}{n} \|P - \hat{S}_n(\lambda)\|_F^2}{(1 - \frac{1}{n} \text{tr}[A_n(\lambda)])^2}$$

$$\|P - \hat{S}_n(\lambda)\|_F^2 = \|P(I_n - A_n(\lambda))\|_F^2$$

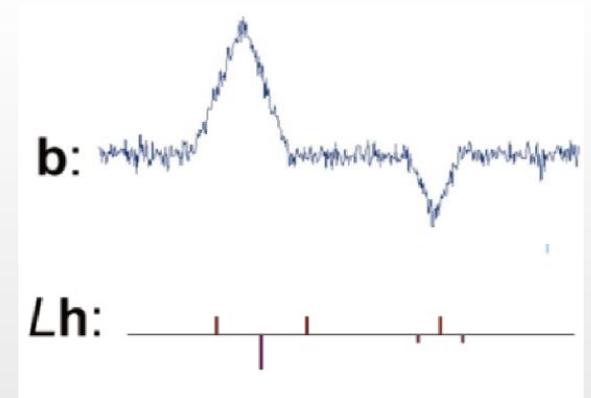
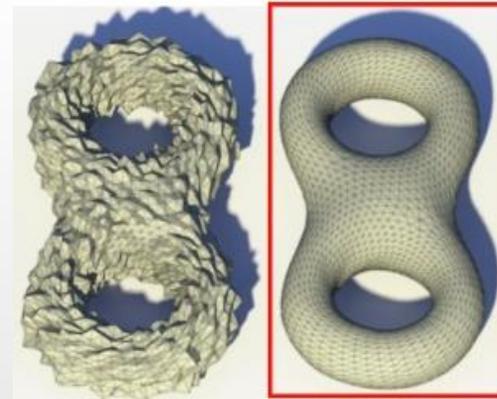
▶ シャープな特徴の解析

- ▶ L1解析でロバストにシャープな特徴だけを取り出せるか？
- ▶ L1解析で精度が良い定式化, ソルバーは？
- ▶ パラメータの調整をどうするか？



まとめ

- ▶ L1解析により特徴を保ってメッシュを平滑化
 - ▶ GCVによる最適なメッシュ平滑化
 - ▶ L1解析によりシャープな特徴を抽出



- ▶ 今後の課題
 - ▶ 実装面での課題の解決
 - ▶ 既存手法との比較
 - ▶ L1解析を他の用途にも使えないか？

ポスターセッション：現状の実装のデモ